

平成24年度における施策評価

施策評価調書

政策コード	10	政策名	交通基盤の整備			
施策コード	1	施策名	高速・広域交通ネットワークの整備			
幹事部局コード	8	幹事部局名	建設部	担当	建設政策課 企画・広報班	
評価者・実施日	1次評価（建設部長）		平成24年8月3日			

1 施策の方向性（必要性と目的）

国内外との交流の促進と広域的な連携を強化し、本県の産業、経済、文化の振興を図るため、空港、鉄道などの高速・広域交通ネットワークの整備を推進する。また高速・交通ネットワークの利便性を向上させることにより、より一層の利活用の促進を図る。

高速道路については、着実な整備を促進するとともに、アクセス道路の整備を図る。また空港については利便性の向上を図るため、県民とともに利活用促進運動に取り組む。

2 施策の状況

(1) 施策目標及びその達成状況

●施策目標(評価指標)		基準値	年度	H22	H23	H24	H25	備考
		年度						
①	秋田自動車道の交通量(単位:台/日)	16,397	目標値	17,700	18,100	18,500	18,800	
		H18	実績値	32,318	28,505			
	道路課調べ	—	達成率	182.6%	157.5%			
②	空港利用状況(千人)	1,357	目標値	1,459	1,476	1,493	1,510	
		H11	実績値	1,188	1,219			
	港湾空港課調べ	—	達成率	81.4%	82.6%			
達成度				B	B			

達成度 A:「全て達成」 B:「半分以上達成」 C:「達成が半分未満」 D:「全て未達成」 E:「その他」

(2) 施策の推進状況

①高速道路網の整備と利活用の促進

■取組内容

・高速道路の事業中、未着手区間の整備促進、早期着手に向けた働きかけ、及び利活用促進に向けたアクセス道路の整備。

■取組の成果

- ・供用開始区間
国道7号：大館西道路「仁井田真中IC～大館南IC」（H23.12月）
- ・事業中区間
高速自動車国道：大館北～小坂JCT（新直轄）
国道：象潟仁賀保道路、本荘仁賀保道路、二ツ井今泉道路、院内道路、大館西道路
県道：鷹巣西道路
- ・都市計画道路の決定区間
日本海沿岸東北自動車道「遊佐～象潟」
- ・利活用促進に向けたアクセス道路の整備
秋田御所野雄和線（御所野工区）、能代五城目線（上岩川工区）、象潟矢島線（荒屋妻工区）
- ・西仙北ICのスマートIC化の実現

■課題と今後の推進方向

- ・高速道路のミッシングリンクが解消されず、高速道路本来の速達性等の効果が十分に得られていない。
- ・大会等を通じ事業促進に向けた取り組みを今後も実施。
- ・高速道路の利便性確保のためアクセス道路の整備を推進する。
- ・スマートIC設置に向けた事業支援、及び利用促進のための広報活動。

②空港の機能強化等による航空利用者の利便性の向上

■取組内容

・空港へのアクセス道路や秋田空港ターミナルビルに直結する立体駐車場の整備を進めるとともに、利用者のニーズに即したダイヤの実現に取り組むなど、空港利用者の利便性の向上を図る。

■取組の成果

・平成22年9月、秋田空港ターミナルビルに直結する立体駐車場が完成し利便性が向上した。
・平成23年7月、秋田空港アクセス道路 秋田御所野雄和線（御所野工区）が完成することにより、空港へのアクセスが向上した。
・秋田空港において、平成23年10月30日から東京線が、12月16日から大阪線がそれぞれ2往復増便され、国内定期便は開港以来過去最大の便数となり、利便性が向上した。
・平成24年3月25日から秋田空港の運用時間を30分延長したことに伴い、首都圏の滞在時間を拡大するダイヤが実現するなど、利便性が向上した。

■課題と今後の推進方向

・秋田空港については、アクセス道路及び立体駐車場の整備により、利便性は向上した。また、23年度下期ダイヤより、東京線及び大阪線が増便され、路線拡充が図られたところである。今後は、関係部局や関係団体と連携した利用促進やPR活動を行うことにより、利用拡大を図り、路線の維持・拡充を図っていくことが重要である。
・大館能代空港については、平成22年度から利用促進を強化し取り組んでおり、平成23年度の東京線利用者数は、前年度を約13%上回った。しかし、搭乗率は目標の60%を下回っている状況にあり、引き続き、県、地元市町村、利用促進協議会等が連携を密にし、利用促進に取り組む必要がある。

3 評価

(1) 施策幹事部長による1次評価

評価結果	●施策の推進状況 ・秋田自動車道の交通量は、通行料のETC休日特別割引及び一部区間の東北地方の高速道路の無料開放による効果などで目標を達成しており、施策全体としては概ね順調に推移している。 ・平成23年度は日本海沿岸東北自動車道の「二井田真中～大館南」間(2.6km)が供用されたほか、「二ツ井白神～あきた北空港」間の計画段階評価が完了し、平成24年度には二ツ井今泉道路が新規事業採択される等、整備が進んでいる。 ・「空港利用者数」は目標数値を下回っており、これは大館能代空港の大阪便の休止、他路線の機材の小型化などにより、利用者数が減少したためである。
概ね順調	●課題と今後の推進方向 ・今後も関係機関と連携を取りながら、高速道路の整備促進、早期着手に向けた働きかけを続けるとともに、県施行区間である鷹巣西道路の整備促進を図る。また、利活用促進に向けたアクセス道路の整備を進めていく。 ・高速道路とそのアクセス道路は、産業振興や広域観光などを支える基盤として、今後なお一層の推進を図る必要がある。また、一部区間の無料化社会実験が終了することによる交通量の減少が懸念されるため、高速道路の利便性向上に向けた低料金の検討などを積極的に進める必要がある。さらに、減少傾向にある空港利用については、官民一体となった利用促進に取り組むことにより、空港利用者を拡大し、路線の維持・拡充を図っていく必要がある。

(2) 企画振興部長による2次評価

評価結果	●施策の推進状況
	●課題と今後の推進方向

4 評価結果の反映状況等（対応方針）

--

5 政策評価委員会の意見

--